

2017年度

事業報告書

鎮西学院本部

鎮西学院幼稚園

鎮西学院高等学校

長崎ウエスレヤン大学

学校法人 鎮西学院

長崎県諫早市西栄田町1212番地1

# 学 院 本 部

## 鎮西学院 2017 年度事業報告

### 建学の精神・鎮西学院の目指す人間像

1881 年（明治 14）鎮西学院は、北アメリカメソジスト監督教会から派遣された宣教師 C.S.ロングによって、長崎市東山手に設立された。生徒 12 名と教師 4 名からスタートした学院は、今や幼稚園・高校・大学までを擁し、卒業生の総数が 1 万 5 千人を超える総合学園に発展した。134 年という長い期間には、原子爆弾による被爆を経験し、また災害にも遭遇した。しかし鎮西学院は常に望みと信仰を棄てず、信じる者の強さを発揮して今日に至っている。

少子高齢化や国際化など、今、教育をめぐる環境は時代とともに変化し、私学のあり方もその根本が問い直されている。しかしそのような状況にあっても、創立者 C.S.ロングの教えである *Be Christian Gentlemen!*（キリスト教精神をもった紳士たれ）という建学の精神は、創立 135 年を迎えた現在でも生きており、クリスチャン・マインドを持った教養人を育むことは、学院の創立意義でもある。将来とも変わることのない鎮西学院にとっての真理である。

川崎升元院長が提唱した「敬天愛人」のスクールモットーは、戦時下の学院を閉校の危機から救った。「敬天愛人」のスクールモットーは、鎮西学院に連なる多くの人々の基本的な生き方の姿勢であるといっても過言ではない。

### 事業の概要

#### (1) 2017 年度目標聖句

塩はよいものである。だが、塩に塩気がなくなれば、あなたがたは、何によって塩に味をつけるのか。自分自身の内に塩を持ちなさい。

マルコによる福音書 9 章 50 節

2017 年度は創立 140 年に向かっての新しい歩みを始める年にあたり、幼稚園、高等学校、大学、それぞれの部門で、自分自身に「塩」を持つ園児・生徒・学生たちを育てることをテーマに、事業を推進してきた。

#### (2) 事業の概要

##### 【概況】

法人事業として、百周年記念館に待望の「鎮西学院平和祈念ミュージアム」が開館された。鎮西学院の多くの諸先輩が長年その設置を望まれていた資料館であり、諸先輩から、多くの貴重な資料や写真、原爆の被災資料が寄せられている。このほか、鎮西学院の強みを更に強化するため、大学・高等学校・幼稚園一体となった国際交流の推進に向け、国際部を発足させ、近隣の小学校・中学校とも連携しつつ、中国上海のエリート校との交流プログラムの展開を始めた。

幼稚園は、2015年度に発足した「子ども・子育て支援制度」への対応について、検討会議を設け、ひとまず「施設給付型の幼稚園」として認可を得た。

高等学校は、生徒募集の成果が入学定員確保として結実した。男女とも進学とスポーツがいずれも華々しい成果を誇る文武両道の学校へと著しい成長を遂げている。2017年度は、更に、普通科に公務員コースが設置され、2018年度にはグローバルイングリッシュコースが設置される。また、校友による多額の寄附により、野球グラウンドの建設が着工された。

大学は、依然として定員割れが続いているものの、中国・韓国を始め東アジアの諸大学との連携が強化され、インドの大学との交流プログラムも開始された。地域と海外をつなぐ鎮西学院ならではの国際交流が展開されている。学長プロジェクトである「ウエスレヤン・ジャズアンサンブル」の活動も軌道に乗りつつある。

#### 【鎮西学院 中期経営改善計画】

鎮西学院は現在、2016（平成28）年度から2020（平成32）年度の5か年の中期経営改善計画に基づき、学院運営を行っている。

計画期間中、日本私立学校振興・共済事業団の経営支援室による経営相談を継続しており、当年度の8月には、学院の全教職員を対象に、厳しい財政の状況について共有を図った。

この改善計画の計画最終年度の目標は、大学の収容定員確保による経常収支差額の黒字転換であるが、計画2年目が終わる段階で、大学の2018年度の入学定員確保は、回復基調ではあるものの未達成となっている。このままでは計画期間中の収容定員確保・財務の黒字回復という目標達成は困難である公算が高い。当年度9月には、この中期経営改善計画の修正を行ったところである。

しかしながら、11月に実施された文部科学省の学校法人運営調査において、理事会ガバナンスの抜本的な強化、監事機能の強化と、改めて5か年の経営改善計画の策定が求められることとなった。

#### 【鎮西学院 長期ビジョン策定委員会】

鎮西学院のキリスト教学校としての方向性、特に財政的な危機にある長崎ウエスレヤン大学の存続の是非に関する具体的な対応策を、2018年～2022年までの5年間を中心に検討することを目的に、理事会のもと、「鎮西学院長期ビジョン策定委員会」が当年度4月に設置された。

学内外の有識者を交えて協議を重ね、同委員会としては、学内委員の見解（長崎県央地域に所在する学校法人にとって大学を有することは最大の強みである）を尊重し、非常に困難な状況のなかであえてリスクを取り、大学再建を中心に財政再建にチャレンジすることを前提に、長期ビジョンの策定に向けた検討を行った。

学院の最重要課題を4つ（「財政的課題」「学生・生徒・園児の確保」「理事会の再建」「地域連携・産学連携による事業展開」）に絞り込み、解決に向けた検討を重ねた結果、「法人経営の安定化に向けた諸課題の解決の方向性」として以下のような提言がまとめられた。

—課題解決のポイント—

- ①大学再建を学院全体の再建として位置づけ、高校から大学への内部進学者の確保のための具体的施策を始め、理事会がさまざまな改革をリードし、ガバナンス、リーダーシップ、アカウンタビリティの強化に努める
- ②耐震対策を始め、今後10年間の施設・設備の整備計画・資金計画を明確化、短期・中期の財政上の達成目標を積み上げることにより、10年間の財務計画を策定する
- ③学院全体として園児・生徒・学生募集に最優先に取り組むとともに、多業種への事業展開に積極的に取り組むことにより、収益増大に努める
- ④経費削減・業務の効率化により生産性向上に努める
- ⑤マーケティングに基づき、2つのCSV（共通価値創造）戦略（総合学園としての内部CSV、産学連携・地域連携・国際連携における外部CSV）を策定・実行し、競合との差別化を図る

【新たな中期計画の策定に向けて】

2017年度は、49年にわたり学院に奉職された森学院長を始め、永年学院の学校経営を支えてこられた川村高校長、加藤法人事務局長ほか、多くのベテラン教職員が定年等により退職されることとなった。

2018年度からは、新たな運営体制による学校経営がスタートする。内外ともに困難な時代にありながら、建学の精神の具現化に向けて、地域の学校法人として、国際交流・文化の拠点として、教育研究事業を展開し続けるよう、法人の経営基盤の安定化を図りたい。

# 鎮西学院幼稚園

## 2017年度 鎮西学院幼稚園 事業報告

☆＝「経営改善計画」関係

### ☆1. 教育目標・経営方針

“キリスト教保育”を中心として子ども達を育む

「子ども達を私のところに来させなさい。妨げてはならない。

神の国はこのような者たちのものである。」

マルコによる福音書 10 章 14 節

～子どもは神様から預かった大切な存在～

### ☆(1)教育（保育）の基本方針

幼児における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである。学校教育法第 22 条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。このことを踏まえ、次のことを重視して教育にあたった。

～教育にあたり重視すること～

- 幼児の「主体的な活動」を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする。
- 幼児の自発的な活動としての「遊び」は、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であるので、「遊び」を通して次の 5 分野 ①健康 ②人間関係 ③環境 ④言葉 ⑤表現のねらいが、総合的に達成されるようにする。
- 幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにする。

これらの教育活動を通して（2）の当園の特徴を生かしながら「知・体・社」の 3 つの生きる力を育むことが出来るよう努めた。

- (1) 「知」…「知識」と「知恵」
- (2) 「体」…「体力」と「運動機能」の発達
- (3) 「社」…「社会性」

### (2)教育目標（保育のこころ） “保育の原点がここにはあります”

- ①「キリスト教の教えの中で、人を思いやり愛ある心を育てる」
- ②「自然に恵まれた環境の中で、のびのびと遊ぶ」
- ③「家庭的な温かい雰囲気の中で、ゆっくりと大切に見守る」

#### ○めざす園児像

- ・ 祈る子
- ・ のびのび遊ぶ子
- ・ けじめのある子
- ・ 思いやりのある子
- ・ のびのび表現する子
- ・ 挨拶のできる子

#### ○めざす教職員像 『澆刺と ざっくばらんに 計画的に』

～教師自らが神に喜ばれる人となれるよう、日々人として保育者としての自分を振り返る～

- ・常に笑顔で、浚刺と園児や保護者と対する教職員
- ・どの子どもも愛さずにおかない、どの子どもも伸ばさずにおかない教職員
- ・園運営に進んで参画し、民主的運営に寄与する教職員
- ・年間、月間、週間の見通しを持ち、計画的に実践する教職員
- ・同僚と協力し、共に研鑽に励む教職員
- ・職場に誇りを持つ教職員

### (3) 経営方針

#### 「園児一人一人が、保護者と共に生かされる幼稚園」

- ・ここに園児がいて、幼稚園があつて、教職員がいる。
- ・どの子ども、未来に生きる、かけがえのない存在である。
- ・幼稚園は、園児と教職員、教職員と保護者との信頼関係の上に成り立つ。
- ・子どもは、教職員の自己変革・向上心によって、よりよく変容する。

### (4) 努力目標

#### ① 計画的実践

##### ○全ての行事の起案を早めに ～個人力から組織力へ～

個人の力量には限界がある。みんなのアイデアが出せる場と時間的余裕を確保。

- ・組織の総合力で運営するためには起案を早めに出し、アイデアを出し合う。

大きな行事は、遅くとも1ヵ月前までに、年間ルーティンの行事は年度当初に、通常の起案は、遅くとも2週間前までに起案して、各々が考えてから会議をした。

##### ○協議等の時間確保のため、毎日の終礼（連絡会）を改善

- ・月、水、金は連絡会。
- ・火・木は、行事等の協議を行う職員会議、園内研究、現職教育を行う。

##### ○週案、業務記録の提出 … 第2, 4火曜日

- ・各クラスの年間計画、月指導計画に加えて、**週指導計画（週案）**及び**用務の業務記録**を書き、2週間に1回は主任・園長に提出。これを活用し、従来に増して意図的、計画的保育・教育を実践した。

#### ② 教職員研修の充実

##### ○キリスト教保育の本質（基礎・基本）を学ぶ研修を実施

- ・「1分間の黙想“祈りの力”（E. M. バウンズ）」、新キリスト教保育指針（キリスト教保育連盟出版物）をテキストとし、終礼時に学習会を実施した。

##### ☆○教職員の研鑽を積むことで、より良い保育の実践を展開する。

- ・幼稚園教育要領改訂の年であったため、県主催の学習会に全教員が参加した。
- ・キリスト教保育連盟九州部会の保育者研修大会が長崎開催であったため、園長・主任が運営にも関わり、全教員が参加した。
- ・園外の研修に出来るだけ参加できるような体制作りを努め、全教員が積極的に参加した。



### ③キリスト教保育の充実

- ・教育目標（保育のこころ）に基づく保育活動をはじめ、「保育室での礼拝」で毎日祈りをもってスタートさせ、「感謝」と「思いやり」の心を大切にしました。
- ・定期的に牧師先生による説教をお願いし、保護者にもキリスト教に触れていただく機会をもった。

〈親子礼拝（ピースチャペル）〉

5月…学院総宗教主事 鐵口宗久先生

10月…甲子園二葉教会 美濃部信先生（高校の卒業生）

1月…大学宗教主事 神田道隆先生

〈合同礼拝（園ホール）〉

6月、2月…諫早教会 長谷川渉先生

### ④広大で緑豊かな学院全体の活用推進

- ・園内はもちろん、高等学校、大学のキャンパスを含む、学院の自然に恵まれた広大で緑豊かな自然環境の中で、「心と体の健康」を育む活動実施。
- ・「学院内遠足」を実施し、学院内を散策。
- ・「どんぐり拾い」・「梅ジュース作り」・「探検ごっこ」・「散歩」など、多様な活動を行った。
- ・高校グラウンドでの「運動会」、大学西山ホールでの「クリスマス礼拝・祝会」、寮前広場でのキャンプファイヤー（年長お泊まり保育、卒園生夏の集い、親子夏の集い）の実施。
- ・高校敷地に開墾した「芋畑」で、親子畝づくりと苗植え、芋ほりを実施した。

### ⑤園だより・クラスだより・フォトレターを毎月発行

### ⑥遠足の充実

- ・4月の歓迎親子遠足は、鎮西学院高校の大型バスに協力いただいて、現地までバスで行く遠足を実施。
- ・学院内遠足を、年3回実施。

### ☆⑦園長による絵本の読み語りを実施

- ・各クラス毎月1回絵本の読み聞かせを実施し、その情報を“園長だより”として保護者に知らせた。また、これを含んだ子育てについての情報をホームページの「園長の子育て談話室」に掲載し、園のアピールに努めた。

### ⑧学校評価の推進

- ・教職員による自己評価を実施し、教育の目的と内容を再確認し、改善を推進する。
- ・毎月の保護者役員会で、行事等についての具体的な評価をいただき、園運営に反映させ、「開かれた園づくり」として、「安心と信頼の構築」を図った。

## 2、施設、設備及び環境整備

### ☆保育料の値上げによる整備

・月保育料を500円値上げした。(2016年度より3年計画)それにより、園舎の施設・設備の整備を実施。

- (1) ブランコ取り替え
- (2) ピアノストッパーの取り付け
- (3) 担任教諭用のパソコン導入
- (4) 園庭整備の推進
- (5) 園舎老朽化への対応…築46年の建物(1970年1月10日落成式)
  - ・バス乗降口の雨どい修理

### 3、危機管理

- (1) 子どもの生命、健康を預かっているとの使命感を持ち、学期ごとに全職員で安全点検をした。
- (2) 園児の避難訓練を、年間を通して実施。(各学期2回、年6回実施。不審者、火災、地震)
  - ・とくに不審者対策では、正門前の運行部にも協力をお願いしている。
- (3) 夜間、休日の防犯管理は警備会社に委託し、警備体制をとっている。
- (4) 不審者対策の道具『ネットランチャー』を設置している。(ネットランチャーとは、鉄砲方式で一瞬にネットが3～4m飛び出し、身体に絡みつ়く防犯対策機器。)
  - ・さらに『さす股』及び『ガス噴射器』を設置している。

### 4、園児募集対策(3月末の人数)

2008年度	72名	2013年度	95名
2009年度	106名	2014年度	104名
2010年度	104名	2015年度	107名
2011年度	109名	2016年度	100名
2012年度	106名	2017年度	92名

2016年、2017年と入園児が減り、全体数に影響している。

2018年度は『子ども子育て支援新制度』の“施設型給付の園へ移行するため、定められた定員数に変更する。

**4、5歳児：各30名　3歳児：30名　満3歳児：10名　合計100名**

(これまでは学校教育法で定められた人数　3歳～5歳児　原則35名

35名×4クラス=140名)

定員については、園舎(部屋数)や教員数からも、長年、現行にあってない人数であったため、今後は適した定員数となり、定員の充足率を上げることが出来るようになることが見込まれる。

☆ 園児確保の最大の力は、在園児保護者や家族の評価・評判が最大の広報となることを日々肝に銘じながら、以下の取組を内容の充実を常に意識して行った。

☆ (1) 広大で緑豊かな学院全体の活用推進

☆ (2) 外注弁当に加え「パン給食」の導入

☆ (3) 未就園児と親子のつどいの推進(オープンキャンパスの一環)

- ☆ (4) 行事の充実と保護者会（ひかりの会）との連携推進
- ☆ (5) 預かり保育の充実
- ☆ (6) ホームページのリニューアルによる情報提供、宣伝活動の充実
- ☆ (7) 教職員研修の充実

## ☆ 5、学院内交流

幹部会・国際交流委員会を中心に、高校・大学との連携を図り、積極的に学院内交流実施。

- ・中国・広東省の幼稚園教育関係者視察団受け入れ。
- ・大学社会福祉学科の実習。園児との交流及び絵本の読み聞かせ体験受け入れ。
- ・高校のインターアクトクラブ月1回預かり保育手伝い。
- ・高校の講座制授業保育コースの生徒実習受け入れ。

## ☆ 6、学院内「検討会議」の設置

① 2015年度から「子ども・子育て新制度」が発足した。この制度にどのように対応していくか検討するための『幼稚園新制度・検討会議』を、2014年度に設置した。

- ・検討会議のメンバー…院長、事務局長、総務課長、会計課長、園長、幼稚園主任

② 新制度の「施設型給付」の幼稚園へ移行を決定し、行政へ書類を提出。

認可され、2018年度より「施設型給付の幼稚園」として始動。

③ さらに今後、園舎が老朽化していることと、新制度へ対応できる園舎であるために、幼稚園「園舎再整備検討会議」を実施していく。新制度への対応に関係しつつ、**幼稚園の中・長期のあり方を検討する**。なお、検討事項については学院幹部会で報告を行う。

# 鎮西学院高等学校

## 教育方針

- ◆建学の精神であるキリスト教に基づく人格教育を行い、さまざまな教育活動を通して「魂（こころ）の教育」を推進していく。
- ◆聖書の教えを土台に据え、校訓である「敬天愛人」の精神を大切にし、神の愛を知り、常に謙虚な気持ちと感謝の心を忘れず、人のために尽くすことのできる人間の育成を目指す。
- ◆世界的視野に立って考え、国際社会の中で活躍できる人材の育成を目指す。

## 教育目標

- (1) 建学の精神の推進
- (2) キリスト教教育の実践
- (3) 学習指導・進路指導の充実
- (4) クラブ活動の充実
- (5) 生徒指導の充実
- (6) 学校力の強化
- (7) 海外からの留学生受け入れ等国際交流の推進
- (8) 校友会やPTAとの連携

## I 教育の充実（教育目標に基づく事業計画）

### (1) 建学の精神の推進

- ① 物故職員記念礼拝、第1学年修養会、平和祈念礼拝、創立記念礼拝、学校クリスマス等の宗教行事を通し、神と出会う場を提供することにより、鎮西学院の建学の精神である神を愛し、隣人を愛し、そして自分を愛することのできる人間の育成を目指すという計画を掲げていたが、全て予定通り実施し、しっかりした宗教教育ができた。学校評価アンケートでもキリスト教関連4項目の平均は3.88(5段階評価/16年度)から3.95(17年度)へ上昇している。

### (2) キリスト教教育の実践

- ① ミッションスクールにおいて礼拝を守ることが最も重要であると位置づけ、教師も生徒も神によって生かされた存在として礼拝を大切にすることを学んだ。年度前半より、生徒と共に学ぶために、教員も必ず着座して説教を聞くこととした。
- ② 近隣の教会の牧師先生の協力を得て、聖書の授業や礼拝等宗教行事の充実を図った。
- ③ 大学の神田宗教主事に高等学校の授業を担当していただくことにより、宗教教育においても高大連携を進めていった。
- ④ 多くの犠牲者を出した被爆当事者校として被爆体験継承を行い、校友会の協力を得て積極的に平和教育に取り組んだ。例年通り8月9日に平和祈念礼拝を実施した。また、平和祈念ミュージアムも8月1日に完成し、学院の歴史・原爆による被害の実情等を内外に示す拠点ができるようになった。
- ⑤ 様々な宗教関連行事で、教職員・生徒共にキリスト教への理解は深まり、ミッションスクールに勤め、学んでいることへの自覚と誇りを感じることができるようになってきた。

### (3) 学習指導・進路指導の充実

- ① 長崎大学薬学部・広島大学・熊本大学2名など国公立大学合格32名(5年連続30名以上)、青山学院・法政・立命館・関西学院など私立大学138名(22年連続100名以上)、ウエスレヤン大学35名であった。残念ながら大阪大学・九州大学は不合格であった。一般進学コースからも4名が国公立大学に合格し、私立大学でも西南学院に同盟校枠4名含めて6名合格できたのは特筆

すべきことである。

- ② 個人指導の充実を図るなど、さらに「東大合格プラン」を推し進め、担当教員は根気強く熱心に指導したが、旧帝大に合格者を出せなかったのは非常に残念であった。
- ③ 1年一般進学コースのGTZCゾーン以上は今年度も51.5%となった。5年前の37%からははつきりとした成果が見える。英検においても引き続き2級18名・準2級58名と多くの合格者を出すことができた。特に2EⅡ留学生フン君は1級合格という快挙を成し遂げた。
- ④ 商業科においては主要検定(簿記、情報処理、電卓、ビジネス文書実務)3級全員合格を目指した。また、諫早コンピューターカレッジ(ICC)との連携を進めるために、ICCより講師を派遣してもらい、3年生希望者へ木曜日の放課後、計5回のプログラミングの講義を行ってもらった。
- ⑤ 就職率は7年連続で100%を達成。景気が上向きのため求人が増えたこと、就職専門員の緻密な指導と、熱心な新規開拓が奏功した成果である。ハウステンボス・ウラノ・大島造船所・県央JAなどに合格した。
- ⑥ 公務員については一般職8名、自衛隊20名の計28名合格と4年連続の30名以上は未達成ながらも25名以上は達成。一般職の中には長崎市役所・大村市役所ダブル合格した者もいた。公務員コース入学者は23名で、25名には満たなかったが、成績上位者が集まっているので楽しみである。両担任も積極的に研修等に出かけていくなど、公務員指導に対する意識は高い。
- ⑦ グローバルイングリッシュコース立ち上げのための準備を進めた。初年度は22名(定員15名/留学生2名含む)でスタートする。4名を除きほぼ全員が奨学生で既に英検準2級の所持者も9名おり、レベルも意識も非常に高い。様々な場面での活躍が期待できる。

#### (4) クラブ活動の充実

- ① 高校総体優勝は4部(卓球男女・サッカー女・駅伝男)、準優勝がバレー男・体操男であった。
- ② 8月に、校友の日本卓球協会常務理事の宮崎義仁氏を通じて、卓球日本代表の平野美宇選手と張本智和選手という話題の二人を招いて中学生卓球大会(第47回川崎奈賀子杯)を内村アリーナ実施。県内外から約1000名の中学生の参加があり大盛況であった。マスコミ取材も無数にあった。

#### (5) 生徒指導の充実

- ① 「5分前集合」を年間目標とし、共通理解として中心に置き指導した。
- ② 野球部員が中心となり、生徒教職員とも大きな声で挨拶を交わすようになった。野球部は朝の校門前の立門指導・校舎内外の清掃など、校内外で高い評価を受けている。
- ③ 携帯電話の所持にあたっては「インターネット安全教育」を行い、社会問題であるSNSによるネット犯罪の予防や抑止につなげた。例年に比べるとSNS関連での大きなトラブルはなかった。
- ④ マナー教育(毎月の容儀検査、JRの乗車指導など)を推進し、規範意識の向上に繋げた。容儀の乱れや指導に従わないなどの生徒は皆無であった。
- ⑤ 2年連続でベル着・ベル授業開始をテーマに取り組み、大きく改善された。授業中の指導に従わない者、怠惰な者等に関しては、教務主任→生徒指導主任→教頭という3段階の指導システムを設定し教職員・生徒に周知。教務主任指導が数件で、生徒指導主任指導までは発生していない。
- ⑥ 生徒一人一人が安心安全に充実した高校生活を送れるように、定期的な校内外の巡視と地域イベントでの巡視に生徒指導部が分担して参加した。指導された者はいなかった。
- ⑦ 「交通安全教育」として、新学期の通学路の確認、定期的な自転車通学生の自転車点検及び保険への加入を義務付けた。
- ⑧ 「薬物乱用」に対しての正しい知識を身につけさせ、良き社会人としての資質と能力の育成のため2年前に薬物乱用教室を実施。17年度未実施も、18年度に再度実施予定。
- ⑨ 地域自治体及び関係機関との連携を図るとともに、生徒の非行事案や問題行動事案を具体的に

情報交換する制度「学校・警察の相互連絡制度」の運用に努めた。数件（家出・DV など）の運用があったが全て解決済みである。

- ⑩ 2017年度に行われた選挙に関しては積極的な投票を呼びかけ 50%以上の投票率を記録した。

#### (6) 学校力の強化

- ① 学校評価、授業評価は実施。学校評価に関しては 36 の質問項目のうち 31 項目で評価が上昇。保護者からの要望には必要の度合いに応じて迅速に対応しており、満足度は高いようだ。
- ② 目標設定・自己申告制度の定着化を図った。年度末に当該年度の反省を記入したものと次年度の目標を記入したものの 2 通の自己申告シートを管理職に提出させることによって、本人の中での PDCA サイクルを実行させている。
- ③ 学習指導（特に進学指導）、生徒指導、カウンセリング、生徒理解、特別支援教育等の研修機会を設けた。進路劇・小論文講演会・女子運動選手と無月経に関する研修会を実施した。
- ④ 魅力ある商業科を目指し、先進校視察を積極的に行った。7月に濱田商業科主任と田中次郎教諭が宮崎学園及び鹿児島情報高校を訪問した。
- ⑤ 昨年度に引き続き、スクールカウンセラーを配置し、水曜日に勤務していただいた。問題を抱える生徒に加え、その担任・保護者にも適切な助言をしていただき、その貢献度は非常に高い。

#### (7) 国際交流の推進

- ① 姉妹校であるアップルビーカレッジとの交換留学を行った。当方からの派遣は 2 名、受け入れは 1 名であったが、例年と異なり当方からの派遣時期が 2 人ばらばらで、しかも先方からの派遣と一人が重なってしまったために、交換留学生同士の交流が例年ほどはできなかった。2 月には川崎教頭が学校訪問し、学長に挨拶した。今後もこの交流を継続することと、交換留学の増枠（ホームステイ枠）を承諾していただいた。
- ② 2017年度は、昨年に引き続き、保護者のニーズに応える形でオーストラリアと台湾への修学旅行を並行して行った。修学旅行評価は 4.12 から 4.41 へと急上昇した。生徒・保護者とも大変満足してもらっている結果と言える。
- ③ 10月に川崎教頭が井川副学長と共に華東師範大付属双語学校（上海）を訪問し、18年度から 10名の短期留学生を受け入れてもらう内諾を得た。（原則無償）先鞭をつけるために、アップルビーカレッジの選考に漏れた 3名に、12月に 2週間の体験留学を提案したところ、生徒会長の 2D松田さんが希望してくれたので、12月1日から 15日まで上記学校への短期留学を経験した。
- ④ 現在 4カ国 7名（中国 2、韓国 1、ベトナム 3、フィジー 1）の留学生が在籍し、1名の外国人子弟（ネパール）も在籍している。今後も 9月入学の 0年生受け入れなど積極的に行っていく。ウエスレヤン大学との連携が不可欠である。

#### (8) 校友会やPTAとの連携

- ① 校友会員を通しての企業開拓を積極的に推進。北村主任・森就職専門員が積極的に関わった。
- ② 場所と予算の関係で、今年度予餞会（豚汁会）は実施しなかったが、池上 彰講演会・市川森一夢記・平和祈念礼拝などに多数の校友会員に参加いただいた。
- ③ 例年同様 PTA 会長に就職に向けた心構えなどの講話を行ってもらった。
- ④ 体育祭、文化祭、市民クリスマス等の学校行事や私学振興大会に数多くの保護者が来校・参加され、様々な活動を行っていただいた。特に文化祭においては PTA 独自のバザーに加えて、各部活動が出す食品の提供の手伝いもいただいた。最近、自ら楽しんで参加をしていただける保護者の方々が増えたような気がしており、非常にありがたいことである。バザーの収益金は卒業生に渡す花束の購入資金に充ててもらっている。

## Ⅱ 生徒募集対策

- ① 2018年度入学者は334名(留学生4名含む)であった。部活動・学力・GEの奨学生が多かったこともあるが、それ以外の本校第一志望者も大きく増加したために、公立高校の合格発表前に298名の手続き者があり、本校の評価が上がっていることを実感した。
- ② 公務員コースは18年度23名でスタート。レベルは昨年よりも上がっているので今後に期待。
- ③ 一般進学コースは、140名定員に対して184名(留学生3含む)と+44名の大賑わいであった。部活動奨学生の増加が一番の要因であるが、この2年間の学びなおしと、タブレットの導入による基礎学力の向上に向けての取り組みも評価を押し上げていると推測する。
- ④ 国公立進学コースは、50名定員に対して54名の入学。第一志望者・高得点者共に増加しており、今後が楽しみである。反面、諫早高校や西陵高校不合格者からの流れ込みはほぼ皆無なので(おそらく日大高校へ手続き)、そこをどう取り込むかは大きな課題である。
- ⑤ 商業科は定員を100名から70名に減員した。中学生の第1回進路希望調査時点で昨年度よりも難化との観測が出ていた。結果的に51名の入学者にとどまり、かろうじて2クラスとなった。明らかにセールスポイントが欠如しているので、思い切った転換が必要と考える。
- ⑥ 行事ごとに容儀・言動への注意を喚起してきた。服装の乱れもなくなり、不信を招くような言動も減り、保護者の満足度も上がっていると感じる。
- ⑦ メディアやホームページを活用した広報活動を展開した。通常のホームページに加えて、Face Book をスタートさせて外への発信を強化した。同時に校内にある電光掲示板に各種大会の成績を掲示したり、その時々の特ピックスを発信したりして、自分たちの学校の素晴らしい情報を共有し、誇りと愛校心を高めるようにしている。
- ⑧ 2017年度は中国1名、韓国1名、ベトナム1名、スリランカ1名、米国1名の長期留学生を迎えた。特にスリランカはAFSという組織からの初めての留学生で、非常に優秀であったので、今後とも関わって行きたいと思う。
- ⑨ 県央地区の生徒減のために、県央地区からの新入生徒は減少したが、それ以外の地区の生徒が急増し、入学生増となった。部活動の活躍と多彩で確かな進路保障が大きな要因と思われる。今後は、Vファーレン関係・長期留学生・帰国子女等の実際に正規の授業料を支払ってくれる生徒の受け入れは大きな意味が有ると思われるので、積極的に受け入れて行きたい。

## Ⅲ 施設・設備整備計画

- ① 公式試合に準ずる試合が可能となるように、野球グラウンドの拡張工事を行った。  
5月16日に完成し使用可能となった。8月8日に竣工式を行う予定。
- ② 100周年記念館雨漏り防止工事を行った。
- ③ 100周年記念館3階・4階のトイレ改修工事を行った。
- ④ ロング寮1階の生徒部屋増築工事を行った。



長崎ウエスレヤン大学

## 学校法人鎮西学院 長崎ウエスレヤン大学 2017 年度事業報告

### 1. 教学改革の進捗状況と産学官連携の推進

#### 1) カリキュラム改革の進捗

カリキュラム改革の3年目にあたる2017(平成29)年度は、各学科のキャップストーンとなる3年次専門科目「コミュニティサービスラーニングⅢ」が開始され、ディプロマポリシーの具体化と、学生のキャリア開発に向けた取り組みがなされた。

#### 【2017年度 コミュニティサービスラーニング・プログラム開設・受講状況】

	プログラム数	受講者数
2016年度	16	201
2017年度	18	171

	プログラム名	受講者数
1	Academic, Cultural International Events or Activities Support Program	15
2	GGLC: Games and Gamification with Learning Community	7
3	V・ファーレン長崎 応援とJリーグ活性化プログラム	13
4	ウエスレヤン助っ人隊	7
5	キャンパス美化プログラム	14
6	こどもの城プレイリーダー	7
7	ミライズ	8
8	会社 PR プレゼンター	7
9	交流さんぽ会	7
10	子どもの支援プログラム	8
11	食・音楽・観光による地域活性化	21
12	精神しょうがいユーザーや家族との交流会	7
13	地域づくりの学びと実践	7
14	長崎市・諫早市・九州地域における地域活動及びまちづくり体験学習	7
15	「風の舎」ピアサポート活動	7
16	福祉教育関連企画支援プロジェクト	8
17	福祉施設活動支援	7
18	命の源流『食』を学ぶ会	14

#### インターンシップ(旧カリキュラム)／CSLⅢ(長崎インターンシップ推進協議会)

	派遣人数
2016(H28)	10人
2017(H29)	7人

2) 全学的キャリア支援体制の成果

基盤教育「就職活動スキルⅠ～Ⅳ」のほか、就職合同説明会や専門職による個人面談、エントリーシート等の添削指導、面接試験対策等、全学的キャリア支援を実施中であるが、2017年度卒業生の就職率は86.4%にとどまった。社会福祉士、精神保健福祉士国家試験合格率は、依然として高い水準を保っている。

【就職・進路実績】

● 就職率

	2017年度	2016年度	2015年度
全体	86.4%	87.5%	92.6%
社会福祉学科	86.4%	87.5%	97.0%
経済政策学科	95.0%	88.0%	100.0%
外国語学科	76.5%	86.7%	75.0%

就職者(2017年度) 51人 ※就職希望者 59人／卒業生 76人中

(内訳) 一般企業 33人 福祉関係 18人 / 県内 36人 県外 15人

- 主な就職先: (株)親和銀行、(株)浜屋百貨店、(株)メモリード、丸高商事(株)  
一般財団法人 大村市文化・スポーツ振興財団、熊本総合病院、青山商事(株)
- 進学先(大学・大学院): クイーンズランド大学大学院、長崎大学大学院  
長崎県立大学大学院、長崎医療こども専門学校

【資格取得支援】

- 福祉関係国家資格合格率 ※カッコ内は全国平均

	2017年度	2016年度	2015年度
社会福祉士	31.3%(30.2%)	37.5%(25.8%)	41.2%(26.2%)
精神保健福祉士	100.0%(62.9%)	83.3%(62.0%)	57.1%(61.6%)
W受験	83.3%	80.0%	50.0%

- 情報処理関連資格(CS検定) 受験者・合格者(人)

	ワープロ2級			表計算2級		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
2015年度 集計	3	3	100.0%	受験実績なし		
2016年度 集計	3	3	100.0%	2	1	50.0%
2017年度 集計	5	1	20.0%	5	3	60.0%

- 英語教育

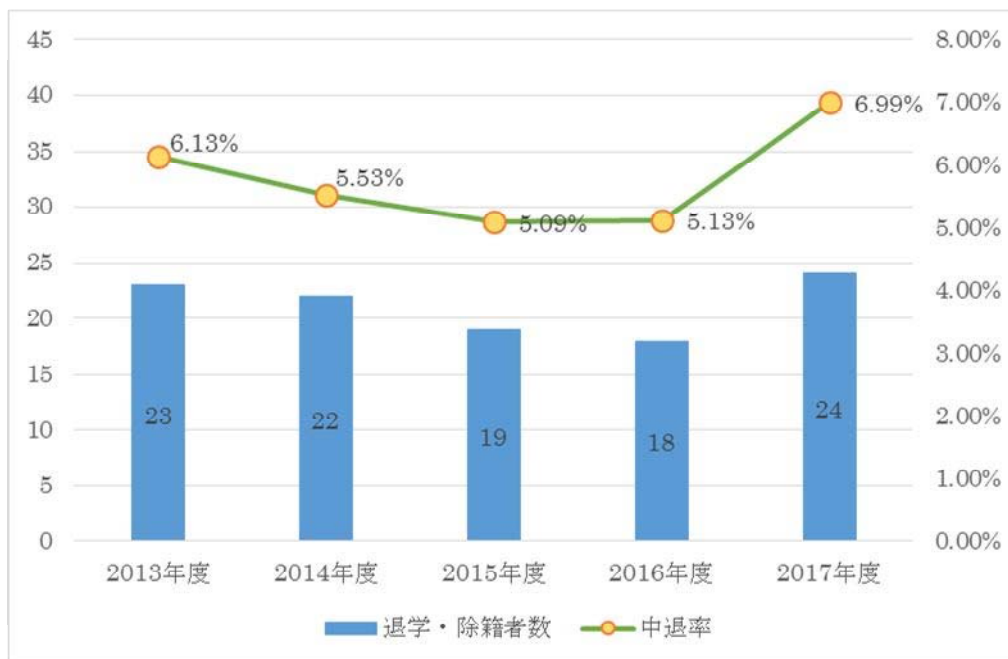
TOEIC

	受験者数(人)	最高スコア(点)
2015年度	43	935
2016年度	42	935
2017年度	26	875

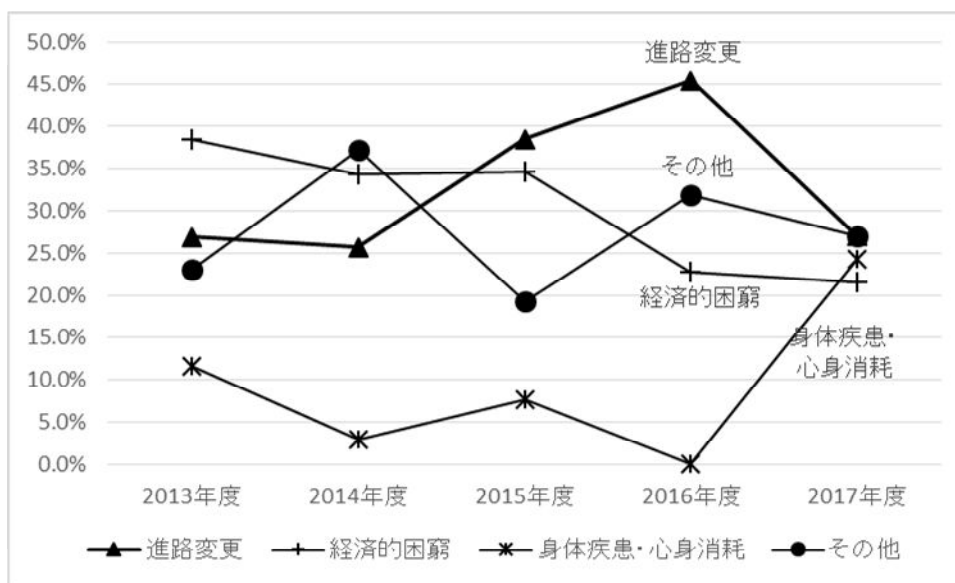
### 3) 中退予防

学科を中心に、キャンパスソーシャルワーカー、学生支援課、学生委員会との一体的かつ総合的な学生支援体制のもと、中退予防に取り組んだものの、退学・除籍による中退率は、対前年度 2 ポイント上昇した。退学・除籍の要因の年次推移を見ると、「身体疾患・心身消耗」によるものが急上昇しており、家庭環境や発達課題を抱えた学生の増加が窺え、初年次からの更なる適応プログラムの強化が急務となっている。

【退学・除籍者数と中退率の推移】



【退学・除籍要因の推移】



### 4) 地域連携・産学官連携への取り組み

2014(平成26)年度より参画している文科省委託事業「成長分野の中核的専門人材養成事業」を通

して、観光地域づくり人材養成をテーマに、雲仙温泉観光協会等との産学連携のもと、社会人の学び直しプログラムとして、公開講座の開催、eラーニング教材の開発に取り組んだ。

また、長崎県諫早市と佐賀県太良町にまたがる「多良海道」地域の観光地域づくりによる活性化事業、南島原市との連携事業を新たに受託した。

このほか、昨年に引き続き、諫早市教育委員会との連携により、諫早市内の中学生対象のイングリッシュキャンプによる英語教育に継続的に取り組むこととなった。

【2017年度 受託事業一覧】

調査・事業名	委託元	金額
平成 29 年度「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」事業 “長崎発 観光地域づくり中核人材育成プログラム”	文部科学省	14,006 千円
平成 29 年度イングリッシュキャンプ開催事業	諫早市	150 千円
まちづくり研究室・生涯学習室の運営	諫早市	—
「住民参加型交流会議『歴史の道 多良海道』	歴史の道観光・文化交流推進協議会	1,960 千円
英語ネイティブ講師派遣事業	SPP	363 千円
南島原市 九州オルレ南島原コース限定商品開発事業	南島原市	250 千円
「蔵の食材を使ったメニュー提案と音楽による地域活性化事業」	ありえ蔵のまち保存会	200 千円
計		16,929 千円

5) グローバル化への対応

引き続き、キャンパス内での国際交流、交換留学や海外CSPなどのプログラムへの学生の積極的参加・参画を促し、「国際的に有為な社会人」に必要なシティズンシップを養成する機会を多く設けた。

従来のタイ、フィリピン、カンボジアにおける海外CSP、スタディツアーに加え、アジア5地域(韓国・中国・台湾・マレーシア・日本)の大学間交流協定「AU+」により、マレーシア・ベルジャヤ大学との新たな短期海外プログラムを開発した。ベルジャヤ大学のインターンシッププログラムでは、2週間の語学クラスと2週間のインターンシッププログラムをおこない、6名の学生が参加した。

【海外プログラムの状況】

プログラム	参加人数(人)
タイ・コンケンCSP	5
タイ・パヤオCSP	4
フィリピン・アウトリーチプログラム	6
カンボジア・タイST	3
ニュージーランド語学研修	1
マレーシア・ベルジャヤ大学インターンシッププログラム	6
中国・天津師範大学短期留学プログラム	6
計	31

当年度は、鎮西学院創立者の母校である米国テネシーウエスレヤン大学との交流が再スタートし、サマーコースの受入・招致に向け協議を開始したほか、従来の交換留学生、短期留学生に加え、長期インターンシップ生(2か月・3か月)を雲仙温泉観光協会・雲仙ホテル旅館組合、地元企業との連携により受け入れた。また、中国政府と長崎県との連携により、中国アウトバウンド推進事業の一環として学生2名を派遣した。その模様は、中国旅行案内テレビ番組として制作・放映された。

受入プログラム	参加人数(人)
交換招致	8
短期受入	18
長期インターンシップ(2か月)	11
長期インターンシップ(4か月)	2

6) 九州西部地域大学短期大学連合産学官連携プラットフォーム

長崎県・佐賀県の国公立大学・短大、自治体、産業界によるプラットフォーム形成事業がスタートし、私立大学改革総合支援事業「タイプ5 プラットフォーム形成」に採択された。本学は、プラットフォーム事業において「地域・産学連携系ワーキング・グループ」責任校として、当該事業に積極的に参画することとなった。

このほか、引き続き、長崎県内4大学(活水女子大学、長崎ウエスレヤン大学、長崎外国語大学、長崎総合科学大学)による連携協定を締結し、連携事業として、本学を会場にアセスメントポリシーをテーマとしたスタッフ・ディベロップメントを実施した。

2. 学生募集・広報活動の状況

1) 学生募集活動

【定員充足率の推移】カッコ内は充足率

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
在籍学生数	398 (62.2%)	373 (60.2%)	351 (58.5%)	343 (59.1%)	349 (60.1%)
1年次入学者数 (内訳)	105 (75.0%)	72 (51.4%)	88 (62.9%)	97 (69.3%)	120 (85.7%)
社会福祉学科	32 (64.0%)	18 (36.0%)	21 (42.0%)	20 (40.0%)	23 (46%)
経済政策学科	28 (56.0%)	16 (32.0%)	26 (52.0%)	41 (82.0%)	42 (84%)
外国語学科	45 (112.5%)	38 (95.0%)	41 (102.5%)	36 (90.0%)	55 (137.5)

【入学者選抜】

① 出願者数は100名(対前年比+14名)

- ・ 3年連続で伸び、前年比14名増の100名。ここ10年で最多、2007年度入試以来の3ケタに乗った。
- ・ 前年を上回ることができたのは、AO・センター利用Aでの大幅増加による。

- ・ 入試区分別では、院内前期・センター利用Bを除き、他の10種で前年を上回るか同数であった。また、指定校・公募制後期・センター利用A・一般Bは、ここ10年で最多の出願数であった。
- ② 入学者数は78名(対前年比+6名)
- ・ 院内前期で前年比-10からスタートしたが、その後の入試区分では全て前年を上回り、前年比6名増の78名が入学。入学者数は3年連続で伸び、ここ10年では2012年度入試の81名に次ぐ2番目。
  - ・ 指定校がここ10年で最多の14名、AO・社会人が前年2倍の14名。これらが入学数増に貢献した。
  - ・ また、院内前・後期、指定校、公募制前・後期での合格者全員が入学したのは画期的であった。
  - ・ ただし、入学率(入学数÷合格数)は目標の80%に届かず、ここ10年で6番目の数にとどまった。センター利用A合格者の入学手続き率が約52%と苦戦したことが最大の要因。
  - ・ 定員管理に関する国の指導により、難易度も高く志願者が多い私大がA・前期日程で合格者数を絞ったことが、それ以下ランクの私大の出願者数増に繋がったものと推測される。
- ③ 学科別では、社福23名、経済42名、外国語13名が入学
- ・ 社会福祉学科は横ばい傾向で、6~7年前の半分程度。志願者あるいは志願を検討した生徒はそれなりにいたが、最終的には長崎純心大・西九州大などに奪われた。2013年度以降、入学者が減少しているのは、全国的な“社会福祉離れ”現象を受けてのことか。
  - ・ 経済政策学科は昨年に続き好調で、ここ10年で最多の42名が入学。県内私大で「唯一」の経済系と認知されつつある。ただし、定員充足率は84%で満足できるものではない。
  - ・ 外国語学科は、ここ10年で2番目の数とはいえ課題は多い。日本人入学者20名以上を確保したい。
- ④ 鎮西学院高校から35名が入学
- ・ 学院内25名(前期21、後期4)、センター利用3名、AO3名、AOスポーツ4名の、計35名が入学。ここ10年では、2012年度入試の38名、昨年の37名に続く3番目の人数であった。

#### 【高校訪問・広報活動】

- ① 県内外の延べ359校を訪問(出前授業、進学ガイダンス等は除く)。前年実績133校の約2.7倍。
- ・ 県内277校、県外82校。うち、入試広報課員も県内8校、県外59校を訪問。
  - ・ 月別では多い順に、1月84回、9月50回、2月48回、7月43回、11月43回。
  - ・ 県内は、1校あたり3.7回訪問。最多は8回で長崎南山と純心女子。続いて、佐世保南、西陵、海星の7回。諫早、大村、川棚、諫早商、大村城南、瓊浦が6回。
  - ・ 一方、未訪問は、鹿町工、青雲、九州文化、離島部の宇久、北松西、奈留、五島南の7校。
  - ・ 県外は、佐賀県33校、大分県19校、福岡県17校、熊本県13校の延べ82校を訪問。
- ② 訪問実績が約2.7倍となったにも拘わらず志願者数・入学者数が伸び悩んでいるが、いわゆる「2018年問題」や国の私大に対する定員管理への指導による私大入試戦線の変化等に鑑みて、志願者数の3ケタ超え、入学者(1年次日本人)の+6名の成果を得た。

【オープンキャンパス集客状況推移】

	2015年度	2016年度	2017年度
高校生計	74	107	73
高3	41	53	56
高2	32	9	12
高1	1	4	5
運動部企画	0	41	0
社会人・その他学生	7	25	9
シニア	1	3	2
一般(保護者他)	33	38	47
合計	115	173	131

h. 留学生募集

【留学生入学者推移】

	2015年度		2016年度		2017年度		2018年度	
	4月	10月	4月	10月	4月	10月	4月	10月
1年次	31	14	34	18	25	11	46	-
うち私費	17	8	18	11	11	7	33	-
うち交換留学生	14	6	16	7	14	4	13	-
3年次	33	6	21	4	14	0	4	-
うち三年次編入	8	3	7	2	5	0	4	-
うち短期	25	3	14	2	9	0	0	-
学部生合計	64	20	55	22	39	11	50	-
日本語教育プログラム	26	32	40	37	26	27	51	-
留学生合計	90	52	95	59	64	38	101	-

3. その他の主な教育研究活動

<2017年度累積 GPA 学年別平均>

	年度	1年	2年	3年	4年
平均	2017年	2.44	2.39	2.55	2.57
	2016年	2.48	2.59	2.52	2.52
	2015年	2.49	2.3	2.45	2.49
最高	2017年	3.96	3.79	3.97	3.85
	2016年	3.76	3.72	3.82	3.76
	2015年	4	3.84	3.84	3.81
最低	2017年	0.28	0.38	1.01	1.01
	2016年	1.07	1.19	1	1.28
	2015年	0.08	0.27	0.06	0.81



<学長賞・成績優秀賞>

学長賞・・・卒業時に、4年間で卒業要件を全て充足し、かつ累積 GPA が 3.50 以上の上位の者、若しくは学期毎に、20 単位以上を修得し、かつ累積 GPA が 4.0 以上の者。

成績優秀賞・・・学期毎に、20 単位以上を修得し、GPA が 3.50 以上の者。

2015	1 年	2 年	3 年	4 年
前期	11	12+1(学)	7	1
後期	5	8	3	4+1(学)
2016	1 年	2 年	3 年	4 年
前期	3	6	4	0
後期	4	3	10	3+1(学)
2017	1 年	2 年	3 年	4 年
前期	10+1(学)	4	2	0
後期	3	1	6+1(学)	9+1(学)

<障害学生の在学状況>

	聴覚障害学生	肢体不自由学生	その他	計
2015	0 人	3 人	4 人	7 人
2016	0 人	2 人	2 人	4 人
2017	0 人	0 人	8 人	8 人

<地域連携>

科目等履修生の受入状況

	前期	後期
2015 年度	8 人	7 人
2016 年度	8 人	9 人
2017 年度	3 人	6 人

(English Proficiency IV、英語音声学、英語プレゼンテーション、アジア文化論、哲学、日本語教育論等)※日本語教育プログラム受講生を除く。

<高大連携関連事業報告>

鎮西学院高等学校との高大連携について、「高大連携講座」に年間を通して取り組むとともに、昨年度に引き続き「ゼミ訪問ラリー」を実施し、ゼミの雰囲気を感じてもらい、大学教員や学生との交流を図ることで、本学への理解を深めてもらうことができた。

また、九州福祉系高校教員研究セミナー、高校生福祉大賞コンテストを開催し、高校における進路指導の動向や、高校生の進路選択についての調査研究、高校生を対象とした福祉啓発事業を継続して行なった。

<体育系部活動の主な成績>

クラブ名	大会名	結果
卓球部	全九州春季卓球大会(福岡)	男子団体 5部 2位 男子シングルス 松木准平 ベスト 32 進出
	全九州秋季卓球大会(熊本)	男子団体 4部Aパート 3位 男子シングルス 松木准平 ベスト 16 進出 年間ランキング 16位
	全日本大学卓球選手権大会(埼玉)	男子シングルス 松木准平出場
	全九州学生新人卓球大会(福岡)	男子シングルス 松木准平 準優勝 男子ダブルス 松浦将大・松木准平 ベスト 16 進出
	オール西日本大学卓球選手権大会(愛媛)	男子シングルス 松木慎平 出場
硬式テニス部	九州学生テニス連盟春季テニス大会 (九州インカレ)	有江龍太郎 3回戦
	九州学生テニス連盟夏季テニス大会	中川倫 4回戦、有江龍太郎 2回戦、 山本怜央 3回戦
	雲仙国際テニストーナメント	有江龍太郎 優勝
ジョギング部	第 31 回五島列島夕焼けマラソン	ハーフ男子高校～29歳以下 深井大介 85位、 5km女子高校～34歳以下 木塚みき 1位
	ロザ・モタ杯第 41 回おおむらロードレース大会	高校一般 10km 吉田翔夢 12位、深井大介 15位 高校一般 3km 中本雄大 18位 健康マラソン男子 39歳以下 3km 才木真央 6位、川崎隼佑 8位 永尾勢矢 10位、西村拓也 11位 健康マラソン 39歳以下 3km 木塚みき 1位
	第 41 回おおむら駅伝競走大会	26位
	第 4 回親和銀行 5 時間リレーマラソン	68位
フットサル部	シーボルトカップ	5位
	アイデムカップ	2位リーグ 1位
	長崎県インカレ	4位 個人優秀賞 磯田陸
WJE ウェスレヤンジャズアンサンブル	出演実績 ・長崎ウェスレヤン大学メイフェスタ(5月) ・たらみ市(6月諫早市多良見町喜々津商店街) ・小浜足湯&カフェ(7月雲仙市小浜町) ・長崎ウェスレヤン大学オープンキャンパス(8月2回、3月)	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有家蔵めぐり(10月、2月2回 南島原市有家町)</li> <li>・第3回全国観光学専攻学生発表会(11月 本学)</li> <li>・おおむら秋まつり(11月 大村市)</li> <li>・長崎ウエスレヤン大学\$2祭(11月)</li> <li>・長崎ウエスレヤン大学福祉フォーラム(11月)</li> <li>・おおせと「ふれあい集い」(11月 西海市大瀬戸町)</li> <li>・真崎ふれあいひろば(11月 諫早市立真崎小学校)</li> <li>・長崎ウエスレヤン大学クリスマスツリー点灯式・礼拝(12月)</li> <li>・諫早市民クリスマス(12月)</li> <li>・よってみんなね長崎 冬の音楽祭(2月 長崎市)</li> <li>・春のスイーツまつり(3月 大村市)</li> </ul>
--	--

## <学術研究>

### 学会補助

本学を会場として開催した下記の学会において、補助をおこなった。

学会名	開催日	補助額
第3回全国観光学専攻学生発表会	2017年11月4日(土)	150千円

### 個人研究費の配分状況

2017年度の個人研究費については、財務逼迫の折、昨年同様150千円の配分となった。

### 地域総合研究所共同研究費の配分状況

研究代表者	職位	共同研究課題一覧
斐 瑠俊	教授	社会福祉・精神保健分野における戦略的マネジメント(BSC技法)の運用の問題と限界
加藤久雄	准教授	旧大村領から五島列島への潜伏キリシタンの集団『移住』にともなう墓制の研究3. -上五島・平戸・生月・松浦地域の17~18世紀の潜伏キリシタン墓制の探究と比較を通して-
矢島邦昭	教授	自治体、高校、大学連携による商品開発・地域活性化・教育プログラム開発研究 その2. -商品の販売経路の拡大と地域への定着に向けて-
佐藤茂春	准教授	住民投票による地域の分離と統合の理論的研究

### 科学研究費助成事業の獲得状況

2017年度の科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)は新規採択なし、また「2018年度科研費」申請件数は3件であった。

## 4. 施設・設備の整備状況

私立大学改革総合支援事業採択により私大活性化教育研究設備整備事業の助成を受け、語学情報センターのPC、アクティブラーニング対応の教室設備の整備を行った。